

1P109

医療的ケアを必要としている在宅療養児の家族が家族会に期待する内容

磯 彩理、宮崎 つた子

三重県立看護大学

【目的】

医療的ケアを必要としている障害児（以下医療的ケア児）の家族を対象とした家族会が少数と考えられる中、家族会に期待する内容を明らかにし家族支援の一助とする。

【方法】

医療的ケア児の家族を対象に、家族会に関する無記名自記式質問紙調査を実施した。質問紙は、対象者の属性、家族会参加の有無や満足度、期待する内容等で構成した。収集した項目はSPSS Ver26を用いて統計を行った。倫理的配慮として、研究概要、プライバシーが保護されること等を書面で説明し、同意を得た。

【結果】

対象家族40組に質問紙を配布し、20名の母親から回答を得た。そのうち回答時に医療的ケアを行っていない者を除き18名を有効回答とした。対象者の約6割に家族会の参加経験があった。家族会についての満足度は、参加経験者の8割が、「とても満足」、「やや満足」と回答し、その理由は、「情報が得られたこと」、「同じ立場の方とのつながり」等であった。家族会には、保育所・学校、病院の情報、利用できるサービスの情報など実生活に即した内容や同じ立場だからこそ分かる情報提供が求められていた。また、家族会参加前の不安については、「医療的ケア児のきょうだいに関すること」が記載されていた。家族会を満足していないと回答した理由には、「住んでいる地域でないため欲しい情報が入手できなかった」等であった。今後の家族会への希望としては、生活圏内や少人数などの「小規模での企画」、感染症流行時などの対面開催が行えない状況でもオンライン方法での「継続開催」の希望があった。また、家族会開催に関する情報提供不足という今後の課題も記載されていた。

【考察】

医療的ケア児の家族会は、「ピアサポート機能」、「社会資源の活用の促進」の役割を果たしていると考えられた。また、医療的ケア児の内容に加え、きょうだいに関する情報提供を充実させていく必要があると考えた。オンライン開催といった家族会という場も求められていることから、「ネットワーク形成機能」、「居場所機能」も果たしていると考えられた。今後は、その時の状況に柔軟に対応した開催方法で、参加者同士のつながりが途絶えないようにしていくことが必要であると考えた。課題を改善するために情報発信を活発にし、対象家族の期待する内容を含めることで、より効果的な家族会を開催し、家族支援につなげていくことが重要であると考えた。

1P110

幼児のクロノタイプと生活リズム、睡眠習慣、養育行動の実態

岩淵 光子¹、古川 照美²¹岩手医科大学²青森県立保健大学

【目的】

近年の夜型化の進行により、子どもの睡眠時間の短縮や睡眠時間帯のずれによる心身の健康や社会生活への影響が懸念されている。そこでクロノタイプと日常生活のずれを改善し適切な睡眠を確保するための支援を検討するために、幼児のクロノタイプに関連する親子の睡眠状態、睡眠習慣、養育行動の実態を明らかにする。

【方法】

2020年10月～11月にA市の保育所・認定こども園に通う3～5歳児の保護者を対象に自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、子どものクロノタイプと睡眠状況（子どもの朝型・夜型質問票日本語版：CCTQ）、睡眠習慣、親の睡眠状況（ピッツバーグ睡眠質問票：PSQI）、養育行動、幼児の生活リズムと親の生活のずれに関する認識についてである。354部配布し、214部を回収した（回収率60.5%）。すべて分析対象とし、CCTQで分類される朝型、中間型、夜型のクロノタイプ別に各項目間の関連を分析した。本研究は、青森県立保健大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

子どもの朝型、中間型、夜型の割合は、それぞれ23.9%、62.2%、13.9%であった。クロノタイプ別睡眠時間（平日、休日）は有意差がなく、起床時刻、就床時刻、入眠時刻、睡眠中央時刻では平日、休日とも夜型が遅くなっていた。親の睡眠状況は、入眠困難、中途覚醒・早朝覚醒、睡眠の質、眠気には有意差がなく、意欲の持続に関する問題と、睡眠と質の評価の不良（PSQI総合得点6点以上）は、どちらも夜型に多かった。睡眠習慣では、毎日の朝食摂取、夕食時刻の規則性に有意差はなく、夜のカフェイン摂取を抑えるは中間型に多く、就寝前のスマートフォン等の利用を抑えるは夜型に少なかった。養育行動10項目のうち、外出時は帰宅時間を決めている、夜寝る前に興奮させないことの2項目は、夜型では実施率は低かった。幼児の生活リズムと親の生活のずれは、夜型で多く認識されていた。

【考察】

全国調査に比べ夜型の割合が高かった理由として、保護者の就労が影響していると考えられた。夜型の保護者は幼児の生活リズムと自分の生活のずれを認識し、自分の睡眠評価と意欲が良好と言えないことから困難な状況が伺えた。親子の睡眠状況を確認し、夜の過ごし方を見直す支援の必要性が示唆された。